

子どもや教育に関わる大人のほとんどは、夏休みが終わると「夏」が終わる。二十四節気では、立秋を経て、処暑が過ぎ、白露を迎え、秋分に至る。しかし現実には暑い。季節と体感を合わせれば、まだ夏だろう。秋は、1週間ぐらいあってすぐ冬が来て、あったかくなかったと思ったら、すぐ夏が来る。四季の割合は、春夏秋冬＝2：4：1：3といったところだろうか▼夏休みは始まったと思ったらあっという間に終わる。夏は長いが、夏休みは短い。本校は、先週登校日があったので、宿題等の提出はほぼ終わっているが、この1週間を残念な思いで過ごしている子もいるかもしれない▼8月31日が誕生日の高校時代の友人が、「毎年それどころではなかった」とつぶやいていたことを思い出す▼夏休みの初日から校舎の改修工事が始まった。校舎を2回に分け、体育館は工事内容を分けて行うので、なんと工期は15ヶ月。工期の間に夏休みがもう1回やってくる▼工事をしているのだから、不自由もある。だからといって子どもたちになるべく我慢させないようにしたい。教育活動も止めない。工事を理由に変更することはあっても、「やめる」という選択肢は持たないようにしたい▼さて、始業式には子どもたちにどんな話をしようか。「今日は学校に来てくれてありがとう」と言いたいな。心と体の健康の話もしたいな。まずは、元気なあいさつをしたい